

一二〇〇人を超える聴衆を集めて「第九」の大合唱を行った事業がある。平成四年度は、一・二年生の音楽選択生徒二七〇人と教職員七〇人、保護者五〇人、地域住民八〇人が合唱団となり、独唱は卒業生を含む四人に依頼、演奏は同校吹奏楽部五〇人、総勢五〇〇人余りが参加した。生徒たちは六月から練習を始め、一般の人たちは九月から毎週集まり、本番まで一九回の練習を行った。十二月二十三日の演奏会には、一般の聴衆四〇〇人と生徒八〇〇人、さらにテレビやラジオ、新聞社などの報道陣が集まり、その前で見事に歌い上げた。

第二節 大学教育・職業教育の進展

一 大学教育の進展

看護大の開学で 昭和二十三（一九四八）年に新制大学として発足した神戸商科大学は、発足当初の商経県立三大学体制へ 学部は経済学科と経営学科の二学科だけであったが、三十八年度に管理科学科を、五十五年度には国際化を先取りした形で国際商学科を設置した。なかでも管理科学科は、我が国に導入され始めたコンピューターを活用する学科で、コンピューターと数学、確率・統計の三つをツールとして、その上に様々な科学的計画・管理技法を組み上げ、組織の意思決定・経営・管理に活用する講座編成となっていて、社会の要請に応えたものであった。



写真 200 姫路工業大学理学部開学式
(平成 2 年)

それまで使用してきた垂水・高丸丘キャンパス(神戸市垂水区)が手狭になったことから、平成二(一九九〇)年度には、倍近い広さを持ち、神戸市営地下鉄の駅に隣接する神戸研究学園都市へキャンパスを移転した。姫路工業大学では平成二年度に理学部が新設され、物質科学科と生命科学科の二学科でスタートし、翌年には上郡町の播磨科学公園都市キャンパスが竣工し、移転した。既に平成元年、日本原子力研究所と理化学研究所が、大型放射光施設(Spring-8)の建設地をここ兵庫県播磨科学公園都市に決めており、三年十一月にはSpring-8の建設工事に着手し、同施設の供用開始は九年十月となった。

平成二年度に入学した学部生がちょうど卒業・進学するのに合わせて、大学は六年度には大学院理学研究科(物質科学専攻・生命科学専攻)を開設、さらにその二年後の八年度には博士課程を置いてその充実を図り、研究者の育成に努めた。

また平成六年四月に、県教委は姫路工業大学に附属高校を開校させた。全日制課程一六〇人(総合科学科四学級)の定員であるが、生徒募集は全県学区であったために、開校に合わせて男子寮(二〇〇人)女子寮(一六八人)を設置し、さらに十月には男子寮をもう一棟(二三人)建設した。

なお、姫路短期大学は、昭和二十五年に姫路工業大学短期学部として工業科三専攻と生活科の二科からスタートした短期大学であった。昭和三十二年に工業科が廃止されたことに伴い、独立して県立姫路短期大学



写真 201 県立看護大学（平成5年開学）

と改称した。昭和四十年に神戸大学姫路分校跡地（姫路市新在家）にキャンパスを移転し、保育科を増設した。昭和五十八年には生活科を改組して生活環境学科・食物栄養学科に、保育科を幼児教育学科に、そして経営情報学科を新設して四学科体制となった。しかし、四年制大学へのニーズが高まってきたことを受けて、平成九年には学生募集を終了し、翌年姫路工業大学の環境人間学部にも再編されることになり、十一年三月、惜しまれてその四九年の歴史に終止符を打った。

県立看護大学設置の陳情は、兵庫県看護協会によって昭和三十八年頃から何度も行われていたが実現しなかった。昭和六十三年、知事の諮問に対して県の健康対策協議会が「県が率先して看護大学を設置し、指導的立場の人材の養成を図ることを強く要望する」旨を答申したことを受けて、県は平成元年、看護大学を平成五年に設置する方針を発表した。

十八歳人口の急減に対応して、国は大学の新增設を原則抑制する方針であったが、特定分野の人材育成の観点から、「看護職員については、なお整備を図る必要がある」として例外を認めた。看護の専門的知識・技術と豊かな人間性や的確な判断力を有する質の高い看護師等を大学において養成することが社会的に求められていたのである。そして平成五年、明石の県立成人病センターに隣接して県立看護大学が新設され、第一期入学生は一〇一人であった。

こうして平成十年の時点で、四年制県立大学三校の体制が整えられた。すなわち①神戸商科大学（商経学部）、②姫路工業大学（工学部・理学部・環境人間学部）、



写真 202 姫路獨協大学(昭和 62 年開学)
(神戸新聞社提供)

③看護大学（看護学部）である。

特色ある私立 昭和四十七年に兵庫医科大学が開学して以降、県内には六十二年度までの一五年間は、大学の開学続く 学新設の動きはなかった。これは、昭和六十年年度まで高校の卒業生数がほぼ横ばいであったことによるが、六十一年度以降は平成四年度の一八一人をピークとして全国の高校等卒業生数が急激に増えてくることを受けて、迎え入れる大学側にも新設の動きが出てきた。昭和六十二年四月には宝塚造形芸術大学と姫路獨協大学が開学。翌六十三年度に流通科学大学、さらに平成元年度に神戸芸術工科大学が続き、五年度には県立看護大学も開学した。

しかし、その後は十八歳人口・高校等卒業者が大幅に減っていく危機感から、平成七年から二〇年にかけて県内の大学は新設・学部の新編・大学統廃合など、慌ただしい時期を迎えることになる。

昭和六十二年度に開学した姫路獨協大学は、すでに獨協大学と獨協医科大学の二つを持つ学校法人獨協学園と姫路市が「公私協力方式」を採用することによって誕生した。この方式は、大学誘致を目指す姫路市が土地と建物を提供し、獨協学園が大学という教育システムを提供して大学を開校させたもので、その後、各地に生まれた公設民営大学の先駆けとなった。開学時点では外国語学部と法学部を、平成元年度からは経済情報学部を開設した。さらに平成三年度には修士課程（言語教育研究科と法学研究科）を置き、五年度には経済情報研究科を開設するなど、

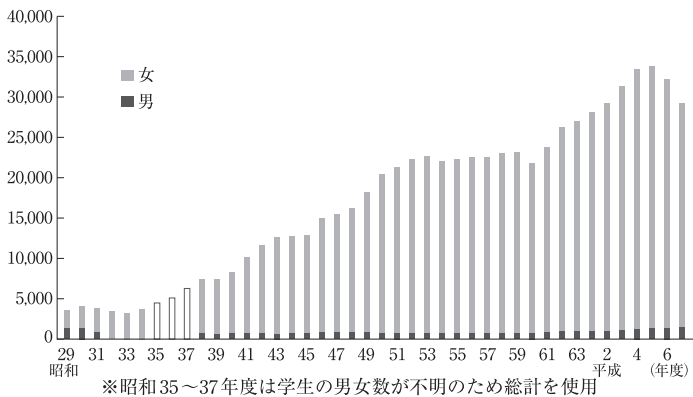


図 127 県内短期大学在学者数の推移
〔「学校基本調査」より作成〕

研究体制の充実にも努めている。平成十八年には「地域に貢献する大学」として医療保健学部、十九年に薬学部を開設して、地域の医療機関と連結しながら地域の求める人材を育成している。

一方、昭和六十三年に流通大手・ダイエーの創業者中内功なかうちいさおによって設立された流通科学大学は、流通（人、モノ、金、情報、サービスの流れ）を通して社会システムを理解し、豊かな社会の実現に貢献できる人材の育成を目指すという新しい理念の下に、実学に強い人材を育てようとしている。この年は商学部のみスタートであったが、平成六年には情報学部を、さらに十三年にはサービス産業学部という、従来の大学にはない斬新な学部を開設した。

平成に入って隆盛 短期大学数のピークは全国では平成八年の五九校、学生数のピークは五年の五三万二九四人。県内の短期大学数と学生数の推移も全国とほぼ一致しており、県内短期大学数は昭和六十二年から平成九年までは最多の二八校、学生数も五年の三万四一三七人が最多で、その後四年間は三万人台が続いた。

十八歳人口に占める短期大学への女子進学率を五年ごとに追うと、昭和五十五年二一・〇%↓六十年二〇・八と二〇・〇%台が続いた

後、平成二年二二・二%、七年には二四・六%（最高は前年六年の二四・九%）にまでたどり着く。この時期は女子の四分の一が短期大学に進学していたのである。

また、県内短期大学における平成五年の男女比は、計三万四一三七人中、男子二二六五人（三・七%）に対して女子は三万二八七二人（九六・三%）と、圧倒的に女子学生が大勢を占めている。大学に比して短い修業年限と比較的安い学費、さらには幼児教育・保育や食物栄養、福祉、医療関係など、卒業後の就職に直結する学科も多いという特性を持つ短期大学は、女性の高等教育機関として発展し、女性の教育水準の向上と社会進出に貢献してきたと言えるよう。

専門職業人育成の好例としては、昭和五十六年と五十七年に設立された神戸市立看護短期大学と神戸大学医療技術短期大学部がある。後者は神戸大学医学部が母体となって設立された。それまで、看護婦（士）や

臨床検査技師、放射線技師等の医療技術者の養成は専修学校・各種学校が中心であったが、医学の急速な発展と医療需要の増大に対応するために短期大学設立の要望が高まった。それを受けて、県内では国立と神戸市立の医療関係の短期大学が設立されたのである。

神戸大学医療技術短期大学部は、前身は昭和二十四年設置の兵庫県立医科大学附属高等看護学院と、四十四年設置の神戸大学医学部附属衛生検査技師学校に遡る。これらの学校の歴史を受け継いで、昭和五十七年に看護学科（入学定員八〇人）、理学療法学科（二〇人）、作業療法学科（二〇人）

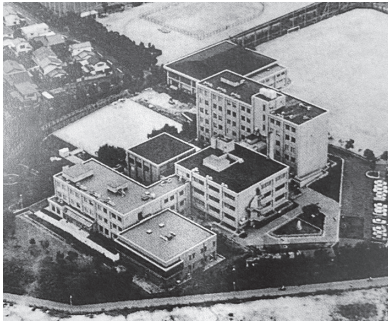


写真 203 神戸大学医療技術短期大学部
(昭和57年開校)(神戸大学提供)

の三学科を持つ短期大学部として開校した。さらに五十八年には衛生技術学科（四〇人）も合わせて四学科体制となった。

もともと神戸大学医学部の附属学校として医学部の所在地である神戸市生田区（現中央区）楠町にあったが、昭和五十三年に須磨区友が丘に移転しており、短期大学部発足時には独自のキャンパスを有していた。その後、神戸大学医学部保健学科として統合・再編されることになり、平成十年には短期大学として十数年の歴史を閉じた。昭和五十七年以降、県内では短期大学設立の動きはほとんどなく、僅かに昭和六十一年、伊丹市内に大手前女子短期大学と、浪速短期大学の二学科（広報科とデザイン美術科）が移転してきたことと、翌六十二年に関西女学院短期大学が三木市に設立されたのを数えるばかりである。

二 専修学校制度の発足と職業教育の進展

専修学校制度は、学校教育法の一部を改正する法律（昭和五十年七月）により、五十一年度から発足した。専修学校は、学校教育法第一条に定める「幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校」以外の教育施設であり、職業もしくはは実的生活中に必要な能力を育成し、または教養の向上を図ることを目的として組織的な教育を行う学校である。従来の各種学校のうち、一定の規模や水準を有するものを専修学校と位置づけ、その教育の振興を図ることとしたものである。

本県では、昭和五十一年度に専修学校制度が発足するまでの四十年代の各種学校の生徒数は、四十二年度の八万二五四八人をピークとして減少傾向にあり、五十年代には五万四〇〇七人（三九八校）となった。こ

療養所青野原病院附属看護学校（十四年閉校）、及びマッサージ指圧師・はり師・きゅう師を養成する国立視

国立は四校、国立姫路病院附属看護学校、国立療養所兵庫中央病院附属看護学校（平成二十年閉校）、国立

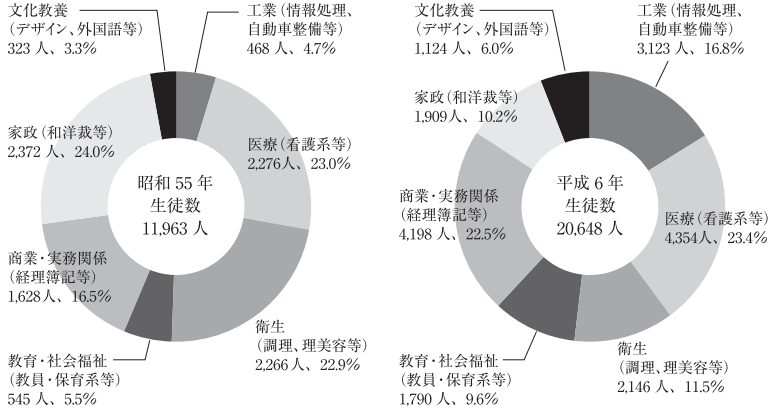


図 128 専修学校分野別生徒数

〔「学校基本調査」より作成〕

の間の特徴を教育分野別にみると、和洋裁の割合が低下し、医療関係の学校や予備校などが多くなった。

昭和五十一年度以降は、各種学校から専修学校への移行が進み、各種学校は更に減少していく。昭和五十五年度には、専修学校は生徒数一万一九六三人（六二校）であったのに対して、各種学校は三万五一九七人（二九二校）であった。その後、平成六年度には、専修学校は大きく増えて二万六四八人（九八校）、各種学校は一万七九四三人（二七九校）と減っていき、生徒数では専修学校が各種学校を上回るようになった。

なお、専修学校の各専門分野の主な内容は、工業関係（土木・電気・情報処理・自動車整備等）、医療関係（看護・歯科衛生・臨床検査等）、衛生関係（調理・理美容等）、教育・社会福祉関係（保母養成等）、商業実務関係（経理簿記・タイピスト等）、家政関係（和洋裁・料理等）等である。

平成六年時点の設置者別の専修学校の設置状況をみていく。

第六章 個性を重視した教育改革の推進

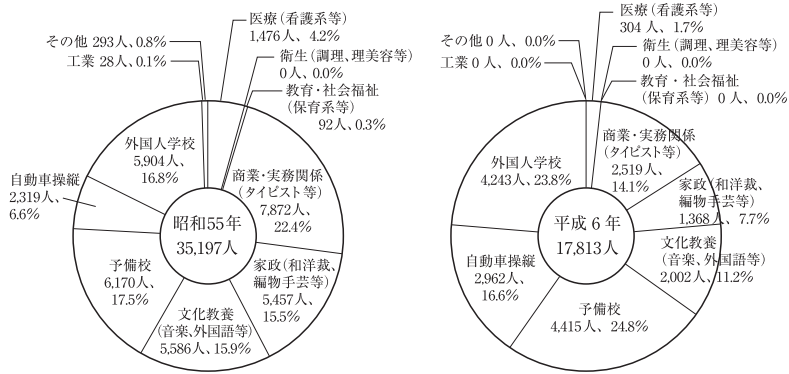


図 129 各種学校分野別生徒数
 (「学校基本調査」より作成)

力障害センターである。

県立は五校、総合衛生学院、厚生専門学院(平成二十年に廃校)、及び加古川、柏原、淡路の各看護専門学校である。

市・組合立は五校、播磨内陸医療事業組合立播磨看護専門学校、加古川市看護専門学校、姫路市准看護高等専修学校、相生市立相生市看護専門学校、公立八鹿病院看護専門学校である。

私立の専修学校は八四校で、教育分野をみると、昭和五十五年度に比べ、情報処理や自動車整備等、商業実務、医療、教育・社会福祉の各分野の生徒数の増加が著しい。

なお、各種学校は全て私立で、予備校や自動車学校、外国人学校(在日外国人のための学校)などの生徒の占める割合が高い。

専修学校には、一般課程のほか、中学校における教育の基礎の上に教育を行う高等課程と、高等学校における教育の基礎の上に教育を行う専門課程とがある。そして、高等課程を置く専修学校は「高等専修学校」と、また、専門課程を置く専修学校は「専門学校」と称することができる。課程別の生徒数をみると、平成六年度の生徒数二万六四八人のうち、専門課程は一万六〇二八人(全体の七七・

六%)、高等課程は四六〇五人(全体の二一・三%)、一般課程は二五人(全体の〇・一%)である。

なお、国は、専修学校制度創設以来、専修学校の振興策を推進しており、昭和六十年には、専門課程二年制卒業者に国家公務員採用Ⅱ種試験受験資格が付与され、また文部大臣が指定した三年制高等課程の卒業者に大学入学資格が付与されることとなった。

第三節 私学教育の展開

一 特色化を進める私立中学・高校

昭和四十年代は、県内で私立中学校の新設はなかったが、私立高校は、第二次生徒急増期のピークの平成元(一九八九)年度を控えた五十八(一九八三)年に神戸弘陵学園高等学校、日生学園第三(現自由ヶ丘学園)高等学校、五十九年に滝川第二高等学校が開校した。その後、平成元年に生野学園高等学校が開校、平成四年には神戸国際大学附属高等学校が八代学院高等学校から校名変更し、さらに六年には、神戸国際高等学校が開校し、その時点で、県内の私立中学校は三八校(うち七校が休校)、私立高校は五二校を数える。

それぞれ、私立学校は独自の建学の精神に立って特色ある教育を推進しているが、中でも生野学園は、学校運営の方針を「不登校を経験した子どもたちのための全寮制中学校・高校」と鮮明に打ち出し開校した。平成十四年には中学校も開校している。